

「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業 “Opening a New World from the Classroom” Project, Hiroshima



Cheonnam Middle School



交流授業

第1回交流授業



相手校との初めての
自己紹介



文化についての
クイズ問題に挑戦

①生徒代表の挨拶（全体）

本校第2学年生徒代表による挨拶で授業を始めた。まず相手に感謝の気持ちを伝え、本日の授業で交流する内容等について説明した。

②自己紹介（グループ）

グループごとに一台の端末の周りに集まり、事前に作成したネームカードを見せながら自己紹介をした。自分の話したことが伝わったり、相手に自分の名前を呼んでもらったりするたびに喜ぶ姿が見られた。

③文化紹介クイズ（グループ）

互いの国や地域の文化を紹介するクイズを実施した。事前に伝えたい情報をまとめたスライド資料を画面共有しながら提示した。互いの国について知らなかったことを知れて喜んでいた。また、「相手も●●のことを知っていた！」という驚きの声もあった。

④Q&Aタイム（グループ）

残りの時間を使って、関心のある事柄について話したり質問したりする等、相手と自由に会話を楽しんだ。

◀接続方法：Zoom▶

大切にしたこと

- ・会話を円滑に進めるため、“Could you say that again?”等の定型表現を事前の帯学習で練習し、交流授業で活用できるようにした。
- ・韓国の中学生と既習の英語を使って交流できることを今年度の授業の目標の1つとして生徒と共有し意識させた。その目標達成に向けて言語活動を充実させた。
- ・相手校とのメールのやり取りで、授業イメージや準備の進捗状況を共有し、両校共に、授業のねらいを達成できるよう、準備や当日の運営を行った。
- ・当日のICTトラブルを軽減するため、海外校との事前の接続テストや生徒へのICT機器操作に関する指導を徹底した。また、Zoomによる授業の運営については教育委員会のICT支援員の支援の下、安心して実施することができた。

生徒の声

- ・クイズの答えが分からなかった時に、相手校の生徒がジェスチャーで教えてくれたのが嬉しかった。コミュニケーションが取れた。
- ・相手に質問したことで、会話が広がった。
- ・（第2回交流授業について）前より会話が続いたこと、外国の人と考えを共有できたこと、楽しく話すことができたことが嬉しかった。相づちや発音を完璧にしたい。

呉市立両城中学校



第2回交流授業



1回目の交流で学んだことを
生かして会話が盛り上がる！



相手校が韓国の名所
を紹介している様子

①生徒代表の挨拶（全体）

相手校の生徒による挨拶、学校紹介で始めた。Cheonnam Middle Schoolの特色についての紹介を聞いた。

②自己紹介（グループ）

生徒の発言時間を確保するために、各グループの人数を前回の半分に減らし、グループ数を増やした。前回交流したグループとは違うグループに分かれ、自己紹介をした。

③両校によるおすすめ場所紹介（グループ）

先生間の事前連携で、相手校の生徒が日本のおすすめスポットについて興味があるということが分かったため、呉や広島の魅力ある場所を紹介した。スライド資料に示す英文を最小限にし、自分の言葉で表現した。途中、うまく伝わらない場面もあったが、生徒はジェスチャーを用いたり、既習の語彙や表現を駆使したりすることで、何とか相手に伝えようとしていた。また、相手校の生徒からは、韓国の名所について教えてもらった。

④Q&Aタイム（グループ）

互いに紹介した内容や関心のある事柄について話したり質問したりする等、相手と自由に会話を楽しんだ。話の途中で終了時間を迎えたグループもあり、「もっと話したかった。」という声も多く聞かれた。

◀接続方法：Zoom▶

交流を終えて

先生の声

- ・簡単な語句や表現を用いてコミュニケーションを図る中で、会話が盛り上がり、生徒に自身の英語力に自信をもたせることができた。多くの生徒に、自分の気持ちや考えを伝えることができた達成感を味わわせることができた。
- ・海外の同年代の生徒とコミュニケーションを図ることを通して、本当に聞きたいこと、本当に話したいことを伝え合えたことで、生徒の英語学習に対する意欲が更に高まった。